

2024年2月11日(日曜日)

府中市立中央図書館イベント ビジネス支援企画 まちの企業講演会シリーズ

マルジナリア書店／よはく舎代表 小林えみ氏講演会

「よはくのある仕事

～女性の独立系出版社・独立系書店の始め方～

開催報告

「まちの企業講演会」は地域の元気な企業からしごとの楽しさや難しさ、創意工夫などをお話いただくイベントです。2023年度は、2020年7月に出版社「よはく舎」を設立し、2021年1月に分倍河原駅前のビル3階に「マルジナリア書店」をオープンされた小林えみ氏をお招きしました。



小林氏は、講演会の始めにご自身がよく聞かれる3つの質問とその回答を紹介されました。

「夢を実現したのですか」と聞かれたら？ ——「生業としてやっている」

「仕事は毎日楽しいですか」と聞かれたら？ ——「楽しいこともあるけれど・・・」

「書店にある本はご自身の趣味ですか」と聞かれたら？

——「趣味ではないジャンルの本も扱い、セレクトする基準は評判や地域性・時事なども参考にしている」

一番大切なことは人生を楽しんでいること、
どのような人生を送りたいか、ということ。

出版社勤務を経て「よはく舎」を設立された小林氏。経緯を交え、ご自身の仕事に対する考え方をお話されました。

「仕事は楽しいものじゃないが『喜び』はある。仕事を楽しむことは否定しないけれど、仕事を選ぶ上で大事な選択ポイントは、嫌なことが苦ではないこと、少し大変だと思う部分などが苦ではないこと、なのかもしれない」と話されました。

書店の開業に関心をお持ちの参加者もいらっしゃる中、書店や出版社の経営については準備の大切さを語られました。

独立系書店を専業で生業にできる人はごく一部、ひとり出版社の場合も、出版数が限られるためカフェを併設したりデザイナーなどを兼業される方が多いそうです。小林氏もマーケティングや経理の知識の他、書店内で食事を提供するために必要な資格を取るなどの準備をされましたが、次々本を出版しなくてもやっていけるのだとポジティブにとらえているそうです。

なお、女性が小売店を開く場合は、ストーカーの問題も念頭に置くほうがよいとアドバイスされました。



色校正紙を手に取り、製作費を抑える工夫を語る小林氏。本作りは原稿の整理から校正、カバー等デザインのディレクションなどの作業があり、紙や印刷の知識が必要です。

書店員に必要なスキルは、
お客さまに合わせた本を選ぶ力とコミュニケーション能力、
本を予算に合わせてセレクトできるバランス能力。

講演では仕事観の話に合わせた沢山のおすすめ本を紹介されました。また、仕事以外の本との関わり方として、ZINE(自費出版)を作ること、古本を売る、本の売り手になってみる、読書会に参加・主催すること、なども紹介されました。

「マルジナリア書店」は人文系の本も多く、人権と多様性を大切に選書をされています。小林氏は社会の課題について、「働く女性へのパワハラ・セクハラの問題は、出版界においてもなくなっているわけではない。世の中には社会的地位の低い職業もある。性別・世代・環境など様々な違いを世界の複雑さとして受け止めることができれば、違いを優しく受け入れられるのではないかと話されました。

講演会の最後にご自身がよく聞かれる3つの質問とその回答について振り返り、「質問の回答は「NO」だけれど、満足度高くやれています」と笑顔で話を締めくくられました。

小林氏の冷静で現実を見据えながらも優しく力強い言葉に、「起業だけでなく仕事の選択についていろいろヒントと刺激をいただいた」「計画の大切さ、楽しむこと、を私も考えていきたい」などのお声をいただきました。

今後も府中の元気な企業を紹介する企業講演会の開催を予定しております。皆様のご参加をお待ちしております。